

可燃ごみの処理方式について 2

(1) 可燃ごみの処理方式の種類（第4回資料より抜粋）

現在、主流となっている可燃ごみの処理方式は図1のとおりです。我が国においては、ごみの衛生処理の観点、あるいは廃棄物最終処分場用地の逼迫による、焼却等による減量化の必要性が高まっています。

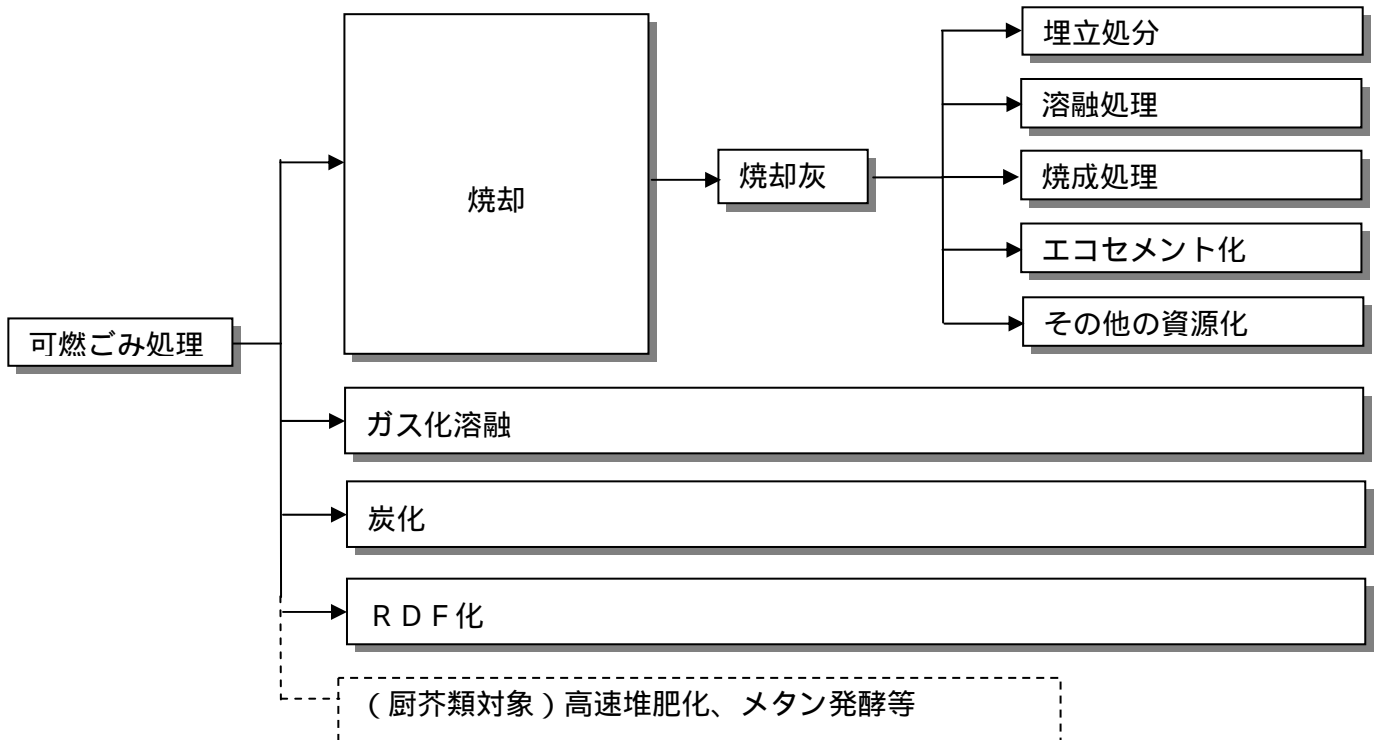


図1 主な可燃ごみ処理方式

(2) 可燃ごみ処理方式の選定について (第4回資料より抜粋)

< 検討を行う可燃ごみ処理方式 >

本検討においては、次の可燃ごみ処理方式について比較を行います。

表1 検討を行う可燃ごみ処理方式

	可燃ごみ処理方式
1 案	焼却炉の新設
2 案	焼却炉、灰溶融炉の新設
3 案	焼却炉、焼成設備の新設
4 案	ガス化溶融炉の新設

< 評価指標、評価項目 >

本検討における評価指標及び評価項目を、次の項目とします。

表2 評価指標、評価項目

評価指標	評価項目
1. 環境にやさしい施設	ダイオキシン類排出量
	二酸化炭素排出量
2. 安定処理に優れた施設	稼働実績
	運転管理
3. 資源循環に優れた施設	資源化率
	資源品売却に係る留意事項
4. 最終処分量削減に優れた施設	最終処分量
5. 経済性に優れた施設	建設費
	維持管理費

次頁に、1 案～4 案の比較表を示します。